

かわいいと思ふ心が神心じや。

……金光教祖御理解 第七十四節……

解説

教祖金光大神様の仰るこの「かわいい」との意味は「可愛いらしい」とのことではなく「可愛そうな」という意味であります。即ち気の毒な人を見た時に、誰しも「可愛そうに、何とかしてあげたい！」との思いに駆られますが、その“憐憫の情”を言われているのであります。

かつて、片岡次郎四郎先生（才崎金光大神）が、大谷に参拝の途中、貧しい哀れなお爺さんに出会った時、あまりにも気の毒に思われ、着ていた着物を脱いで着せてあげました。そうして御本社に参拝すると、教祖様が「才崎金光、今日は結構なおかげを受けたなあ。不幸せな者を見て、真にかわいいの心から、わが身を忘れて人を助ける、そのかわいいと思ふ心が神心じや。その神心におかげを頂けるのぞ。それが信心ぞ」と仰られたとの事であります。

まさに“憐みの心、憐憫の情”は“神様が下さった心の働き”であり、その思いに従って起こす無償の行為が信心であると明言されているのであります。

故に私達は、この“かわいいそう”との憐憫の情を大切に、今日の社会のあらゆる事象に対処させて頂きたいと存じます。